

## 第24回土木構造物検討会 議事録

1. 開催日時 : 平成28年7月19日(火) 15:00~17:10

2. 開催場所 : (一社)日本電気協会 4階 D会議室

3. 出席者(順不同,敬称略)

出席委員:谷主査(東京海洋大学),山崎副主査(首都大学東京),原口幹事(関西電力),佃(産業総合研究所),鈴木(原子力安全推進協会),松山(電力中央研究所),増田(日本原子力発電),氏家(北海道電力),加藤(東北電力),末広(東京電力),河村(中部電力),清水(中国電力),小川(四国電力),本郷(九州電力)  
(計14名)

代理出席:岡田(電力中央研究所・大友代理),伊藤(日本原子力発電・増田代理)\*,寺田(北陸電力・中村代理),川真田(電源開発・若松代理) (計4名)

常時参加者:中村(関西電力),秦(中部電力),天野(中部電力) (計3名)

オブザーバ:小倉(関西電力) (計1名)

事務局:佐久間,井上,大村(日本電気協会) (計3名)

\*:増田委員出席までの間代理出席

4. 配付資料

資料 No. 24-1 第23回土木構造物検討会議事録(案)

資料 No. 24-2 土木構造物検討会 委員名簿

資料 No. 24-3 平成28年度 土木構造物検討会 活動計画(修正)

資料 No. 24-4 伊方発電所の地震動評価について

資料 No. 24-参考資料 原子力関連学協会規格類協議会「津波に関するWG」の状況報告

5. 議事

(1) 代理出席者の承認及び会議定足数の確認

事務局から代理出席者4名の紹介を行い,主査の承認を得た。出席者は代理出席者を含め,定足数確認時点で16名,会議開催条件の「委員総数の2/3以上の出席(12名以上)」を満たしていることを確認した。また,事務局からオブザーバ1名を紹介し,主査の承認を得た。

(2) 前回議事録の確認

事務局から資料 No. 24-1に基づき,あらかじめ委員の確認を受けている第23回土木構造物検討会議事録(案)を説明し,承認された。

(3) 検討会委員の変更について

事務局から資料 No. 24-2に基づき,検討会委員の変更について報告した。検討会委員の変更は,

次回耐震設計分科会にて承認後有効となる。

- ・変更：原口 和靖（関西電力） → 小倉 和巳（同左）
- 大友 敬三（電力中央研究所） → 岡田 哲実（同左）
- 中村 孝之（北陸電力） → 寺田 彰（同左）
- 若松 光希（電源開発） → 川真田 桂（同左）

なお、主査から、原口幹事の後任幹事に、小倉新委員候補が指名された。

#### (4) H28 年度活動計画について

原口幹事から、資料 No. 24-3 に基づき H28 年度活動計画の修正について説明があった。  
審議の後、挙手にて、H28 年度活動計画の修正は承認された。

主な質疑・コメントは以下のとおり。

- 機器・配管系検討会、建物・構築物検討会が取り組むとしていた「原子力発電所の地震後の施設評価に関する基準」の制定について、耐震設計分科会において土木構造物検討会での検討も必要との提案を受け、谷主査と相談の結果、H28 計画へ追加することとしたい。
- 実質的には下期から活動になる。次回以降の検討会で、土木学会の「屋外土木構造物の健全性評価ガイドライン」の紹介をすることを検討する。
  - ・基準を主体的に管理していくのはどこの検討会となるか。
  - 代表幹事会で調整することになるが、土木構造物検討会が主体ではない。
  - ・基準を作成するにあたって、作業会を作るのか。
  - 実際の規格を作成するにあたっては、作業会を作ることになる。
  - 作業会を作るとしても、来年度以降となる。
  - ・その他、制定のスケジュールはどのように予定しているか。
  - 去年、本件の話があったが、具体的な動きはまだ始まっていない。H28 年度計画にも記載のとおり「上程時期未定」とされている。

現状、機器・配管系検討会の作業量が多く、JEAG4601(重大事故等対処施設編)の対応後から検討を開始することになると思われるため、来年後半から動く想定される。

#### (5) 伊方発電所の地震動評価について

小川委員から、資料 No. 24-4 に基づき、伊方発電所の「中央構造線断層帯の地震動評価」について紹介があった。

## 6. その他

### (1) 原子力関連学協会規格類協議会「津波に関する WG」の状況報告

事務局及び松山委員から、資料 No. 24-参考にもとづいて、津波に関する WG の活動状況について報告があった。主な質疑・コメントは以下のとおり。

- ・検討が必要なところ、足りないところの洗い出しをしているが、その対応は各学会や検討会に依頼するのか。

→原子力関連学協会規格類協議会に報告するが、3学協会の委員長が揃っており、そこで振り分けがなされ则认为る。

- ・添付4に比較対象の規格としてJEAC4601が入っていない。JEAC4601はほとんど「津波評価技術」を引用している。添付4には元文献だけが記載されている。

→再整理する。

- ・添付4 P5で、報告書には2種類の津波の定義があるが、課題として4601に跳ね返る可能性がある。

→その可能性はある。リスク論的な立場から整理する必要があるかも知れない。

- ・当面、検討会としては情報共有とする。ワークショップが開催される場合は協力する。
- ・添付4 P5で設計水準津波と事故水準津波に関して補足すると、設計水準津波は深層防護のレベル1の水準の津波のことを報告書では言っている。通常我々が普通使っている基準津波はレベル3、ここである事故水準津波である。JEAC4629, 4601では基準津波と入力津波を使っている。入力津波と事故水準津波との関係の整理が課題に挙がっている。

## (2) 規格類の発刊状況

事務局から、規格類の発刊状況について報告があった。

- ・JEAG4601：3月末をもって発刊
- ・JEAC4601：平成28年度上期発刊目標

## (3) 次回開催

- ・議題の候補

原子力学会「断層の活動性と工学的なリスク評価」調査委員会の報告書  
3学協会規格類協議会 津波WGの活動状況

- ・開催日程は、11月を目途に別途調整することとなった。

以上